

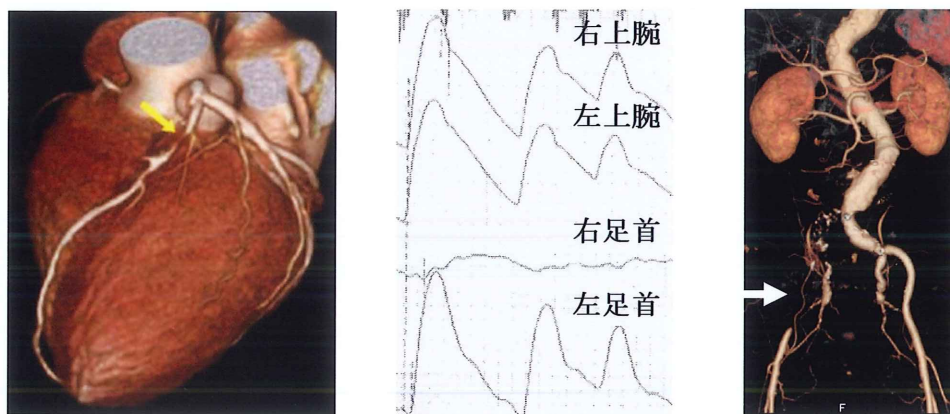
# 血管外来と頸動脈の手術について

メディカルシティ東部病院 脳脊髄センター 中野 真一

## <血管外来>

長年の糖尿病や脂質異常症により全身の動脈硬化が疑われる方に対して、下記のような検査を行います。MR検査で内頸動脈狭窄が発見された方は高率に冠動脈や総腸骨動脈の狭窄も合併しており、全身の血管検査をしておく必要があります。

1. 頭蓋内動脈並びに頸動脈MRA、頸部内頸動脈エコー
2. 心エコーで冠動脈の評価、冠動脈CTA
3. ABI、脈波図、腹部エコーで腎動脈の評価、腎動脈～下肢の動脈のMRA、CTA



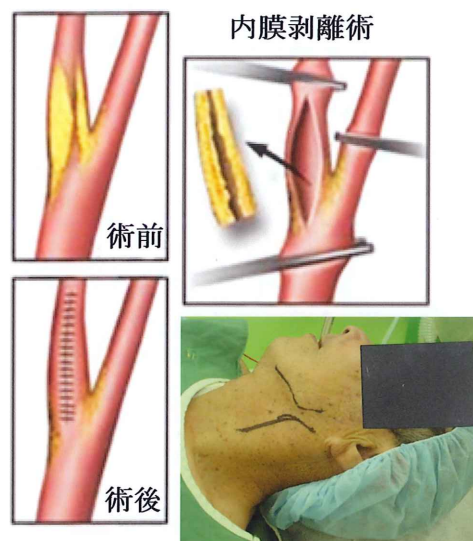
心臓CTA：冠動脈狭窄 脈波図：右下肢動脈閉塞疑い 下肢動脈CTA

内頸動脈の70%以上の高度狭窄が発見された場合、脳梗塞が生じる危険性がありますので、一般的には何らかの予防的手術をした方がよいとされています。手術にはステント留置術と内膜剥離術の2通りの方法があります。内頸動脈プラークの性状や年齢などによってどちらの手術が適しているかが異なることがあります。

### ステント留置術



### 内膜剥離術



動脈硬化が起こる順番は人によって異なりますが、一般的には①冠動脈、②内頸動脈、③下肢動脈の順に起こることが多く、間欠性跛行（長く歩くとふくらはぎが痛くなる）という症状があり下肢動脈の狭窄や閉塞が認められた方は、既に冠動脈や内頸動脈の動脈硬化を起こしている可能性が高く、是非冠動脈や内頸動脈の検査を受けられることをお勧めします。内頸動脈狭窄だけでなく冠動脈狭窄も発見された場合には、一般的には冠動脈狭窄の治療が優先されます。